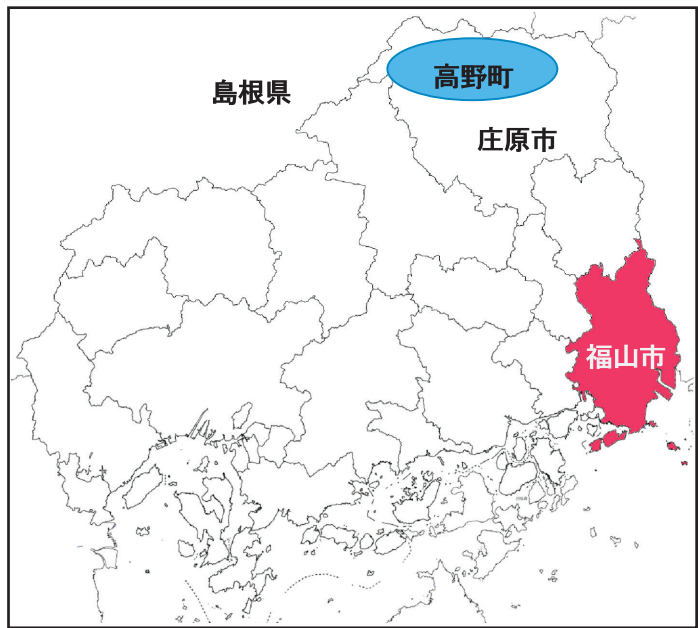


(2) 福山市とちがう土地のくらし

ア 庄原市高野町 (広島県でいちばん北の町)



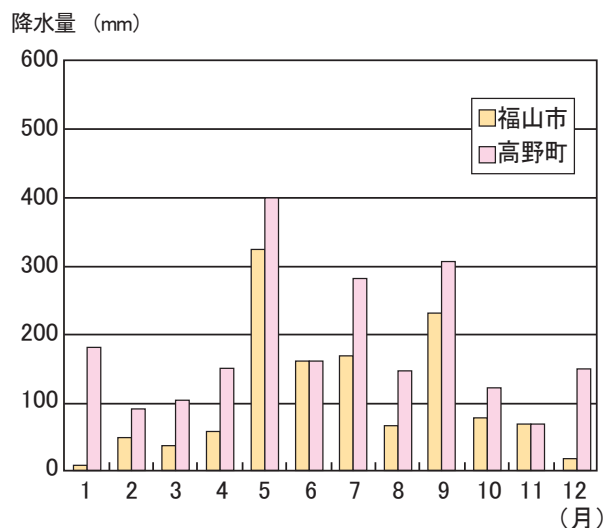
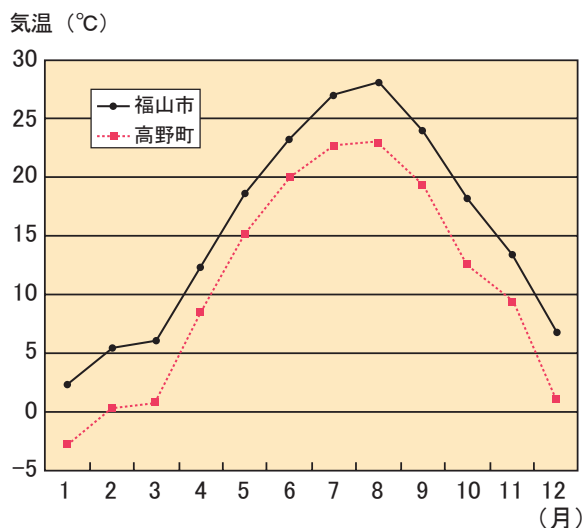
わたしたちの住んでいる福山と
のちがいをみつけよう！



(ア) 土地のようす

広島県のいちばん北の町の庄原市高野町は、中国山地の山あい、高さ500mのところにあります。まわりには1000mをこえる毛無山などの高い山があります。山地から流れ出るたくさんの水は、町内の中ほどを流れている神野瀬川に集まり、町の西にある高暮ダムにたまり、三次盆地へと流れていきます。そのあと江の川と合流し、日本海へ流れていきます。土地が高いため、一年間を通じて気温は低いです。内陸部にあるため夏は、昼間と夜の気温のちがいが大きくなります。また、夏は短く、冬が長いものとちがうです。冬になると雪が50cmから70cmもつもらいます。多い時には1m以上にもなることがあります。

福山市と高野町の気温と降水量



(イ) 米作り

高野町の川ぞいに広がる平地では米作りがさかんです。夏が長く冬が長いので、農家の人は、いねを育てるためにいろいろな工夫をしています。寒さや病気に強く、早く育つ品種をえらんで、4月のはじめから、電熱育苗器でなえを育てます。そのころから、雪がとけたばかりの田へ、たい肥を入れて、田のあらおこしをします。5月になるとすぐ田うえを始め、9月には、いねかりが始まります。

高野町の農業

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米作り			高野町 福山市	もみまき	田うえ				いねかり			
大根				じかまき			取り入れ					
りんご	雪から木を守る 土づくり・せんてい・ハチの管理・放飼			消毒・追肥 害虫対策 袋かけ作業				収穫 出荷				

それぞれの地域にあった農業のやり方を工夫しているんだね。



(ウ) 地域の特徴を生かした農業

◎夏の太根作り

太根は、高野町の北部（和南原）を中心に作られています。このあたりの土地は、黒っぽい火山灰土で、深くやわらかい土地です。この土は太根作りにてきしています。また、太根は、福山では冬に多く作られますが、高野町では、すずしい夏を利用して、6月から11月にかけて取り入れができるようにしています。高野町は、広島市や呉市、福山市の市場へ、毎日太根を送っています。

自然・環境

産業

歴史・伝統

先人

今・未来

◎りんご作り

庄原市高野町で作られるりんごは甘くおいしいと大変人気があります。それは、高野町の気候が、年間を通してすずしく、昼と夜の気温差が大きいからです。りんご農家は、りんごを作るために、芽を守ったり、育ちをよくしたりするために枝を切せんてい作業や実を害虫などから守るための袋かけ作業をします。



〔りんごの木〕



〔出荷前のりんご〕

特に気をつかうのは、春にりんごの芽を守ることです。りんごの芽は0度以下になると、そのままでは死んでしまうので、農家の人たちはその時期にスプリンクラーで水をまいて芽を凍らせることで0度以下になることを防ぎます。以前は石油を燃やして暖かくして霜などによって温度が下がることを防いでいました。そのころの費用は1ヘクタールの農家で一晩およそ12万円でした。現在の方法ではおよそ1万円です。こうした工夫と努力によって高野町のりんごは評判のよいものになっているのです。



〔凍ったりんごの木のえだ〕

◎広島牛を育てる

農家では、発育のよい広島牛の親牛をかって、子牛をふやして三次家畜市場へおくっています。高野町では、1978年（昭和53年）に毛無山にぼく場（牛肉センター）をつくりました。センターでは、農家のいそがしくなる5月はじめから10月のおわりまで、農家から牛をあづかって、それぞれの牛に合ったえさをあたえて世話をしています。また、おなかに赤ちゃんのいるめす牛を育てて、農家に売る仕事もしています。そのほか、冬になると、かんそうしたぼく草を農家に分ける仕事もしています。



〔毛無山ぼく場〕



ゆき おお ふゆ たかの ちょう ひと
雪の多い冬を高野町の人たちはどうやってすごすのかな？

(工) 冬のくらしの工夫

1 2月の終わりに残った雪は、根雪として残り、さらに3月まで雪がよくふるため、町全体は雪におおわれます。家々の屋根は、ふり積もった雪で家がいたまないように「あぶらがわら」や「かわらぼう」にしたり、また、一度に雪がすべりおちてはきけんなので「雪どめ」をつけたりもしています。冬のあいだは、町の人々は力を合わせて雪おろしをします。

商店街の道路のかたがわには、はば70cm、深さ1.2mぐらいの「流雪こう」をつくっています。雪おろしをした雪や道につもった雪をその流雪こうに落とし、ポンプでくみ上げた水でとかして流すしくみにしているのです。また、「除雪車」が出て、道路につもったたくさんの雪をとりのぞく作業もします。春から秋にかけていそがしかった農家の人々も、冬は雪のために田や畑での農作業ができにくくなります。そこで、リンゴの木を守ったり、牛の世話をしたり、除雪作業などの仕事をしています。

学校では、子どもたちが、鉄棒までかくれるほど雪のつもった運動場で、雪合戦などをします。学校から遠いところに住んでいる小・中学生は、スクールバスで通学しています。

最近では毎年「スポーツ雪合戦」の大会を開き、県内はもとより、近くの県から多くの人たちがチームを組んで参加しています。多く積もる雪を利用して地域を盛り上げようとする工夫もしています。



ゆき
〔雪どめのあるかわらぼう〕



りゅうせつ
〔流雪こう〕



ゆきがっせん
〔スポーツ雪合戦のようす〕

自然・環境

産業

歴史・伝統

先人

今・未来



わたしたちの住んでいる福山
とのちがいをみつけよう！



おおさきしもじま
〔大崎下島のみかん〕

イ 呉市 豊町 (広島県のいちばん南の町)

(ア) 島のようす

広島県の南に広がる瀬戸内海には、大小たくさんの島々があります。大崎下島は、瀬戸内海のほぼ中心で、竹原市の南西約20kmのところにあります。海をへだてて大崎上島や愛媛県の岡村島があります。

大崎下島には、豊町と豊浜町があります。豊町は、大崎下島を中心に小さな六つの島を合わせた町で、昔からみかんの産地として有名です。

豊町には、高さ448mの一峰寺山があり、急なしゃ面が海岸までのびています。このため、町には川らしい川もなく、平地も少なくなっています。



(イ) 地域のとくちょうを生かした農業 —みかん作り—

豊町で作られた温州みかんは、「大長みかん」という名前です。みかん作りのようすについて、みかん農家の人にたずねてみました。

農家の人の話



みかん作りには日当たりと水はけがたいせつです。島は平地が少ないので、山の斜面にだんだん畑を作ること



〔モノラック〕

で、日当たりと水はけがよくなります。夏にしっかりと日の光をあびて、あまくておいしいみかんになります。昔は、みかんがいっぱいの子を背おって、急なだんだん畑から里の農家まで運んでいました。今では、山の上の畑まで軽トラックで行けるよう、人々が共同で大きな道をつけたり、ケーブルやモノラックを取りつけたりしたので、楽にみかんを農道まで出し、トラックで家まで運べるようになりました。時期をみて、家から選果場に持っていき、そこで形・大きさ・あまさなどをより分けて、箱に詰め、まとめて大型トラックに積み、全国に送り出しています。



〔選果場のようす〕

港につながっていた船はみかん作りと関係あるのかな？



〔港につながれた農船〕

自然・環境

産業

歴史・伝統

先人

今・未来

農家の人の話



わたしたちは、朝早くから、フェリーボートや農船で他の島までみかんを作りに行っているんだよ。豊町の人は、昔から、まわりの島や愛媛県の島にも土地を買って、みかん作りに出かける『出作』をしているんだよ。

農船というのは、長さ10mぐらいの木ぞう船で、みかんを運んだりするのに使っているんだよ。

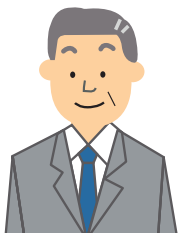
朝5時前から仕事に出かけ、行くのに1時間以上かかることもあるし、風や潮の流れのえいきょうも受けやすいから、大変な時もあるんだよ。



〔フェリーボートや農船でみかん作りに出かけて行くところ〕

J A (農業協同組合) の人に、おいしいみかんを作るための工夫をたずねました。

J A の人の話



豊町では、1902年(明治35年)にみかん作りが始まりました。多い時には全国の早生みかんの半分を作るほど、さかんだったんだよ。

しかし、1972年(昭和47年)ごろから、ほかの地域でもみかんとれる量がふえて、ねだんが下がり、苦労して作ったみかんをすててしまうようなことがあったんだよ。そのため、作る量をへらし、みかん

を日のよく当たる所にうえたり、つみ取る時期を考えたりして、味や形のよいみかんを作る工夫をしているんだよ。

近ごろでは、みかんの木のまわりに白いビニールをして、太陽の光を反射させ、いい色がつくようにしたり、雨水があまりしみこまないようにしたりして、あまくておいしいみかんを作る工夫をしているんだよ。

いろいろな工夫が考えられているんだね。

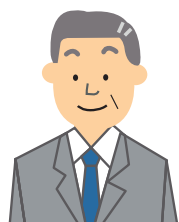




[平地にうねをつくるみかん作りのようす]



[ビニールをしいたみかん作りのようす]



1990年(平成2年)からは、「ハウス栽培」も行われ、天候に関係なく、夏に出荷できるあまくておいしいみかんを作る努力もしているよ。

また、「豊マンダリン」や「デコポン」など、かおりがよくてあまい、新しい種類のみかんを作る努力もしているんだよ。

特に、全国の1/4の出荷量をもつレモン作りでは、農薬を使う時期

を書いたカレンダーをつくって安全のために努力しているんだよ。

はたらく人の高齢化によって、畑の近くまで車で入れる農道をつくり、みかんや肥料を運びやすくもしているよ。また、機械であまさを調べて、よりあまくておいしいみかんが出荷できるようにしているんだよ。



[ハウス内のみかん]



[だんだん畑のようす]



たしかに、手間のかかる大変な仕事だけど、みんながおいしいと言って食べてくれる顔が見たくて、いっしょけんめいがんばって、みかんを作っているんだよ。

しま ひとびと
(ウ) 島の人々の暮らし

やくば ひと はなし
役場の人の話



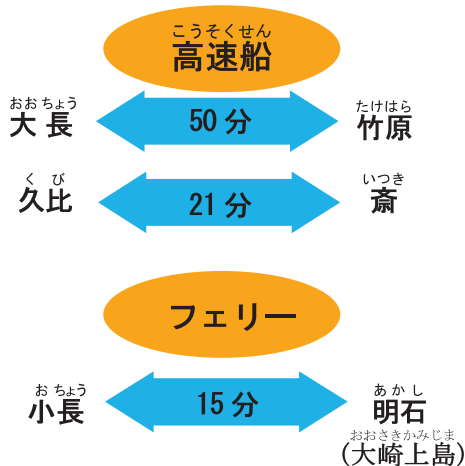
しま ひとびと
島の人々は、どんな暮らしをしているのかな？



しま ひとびと せいかつ ふね しごと か もの い
島の人々の生活にかかせないのが船です。仕事や買い物に行くときや、
がっこう かよ つか しま しま みなと たけはら かわじり
学校に通うときに使っています。島には、3つの港があり、竹原・川尻・
あかし いつき えひめけん いまばり こうそくせん
明石・齋・愛媛県の今治などへ高速船やフェリーが出ています。

まち
町は、4つの地区に分かれており、島のまわりを通る県道、農道で結ば
れていきます。おおさきかみじま ろせん えんちよう はし ようちえん
大崎上島のさんようバスが、バス路線を延長して、走っています。幼稚園の
こどもやしょう ちゅうがくせい つか がっこう かよ
子どもや小・中学生も、そのバスを使って学校に通っています。はたらく ひと はんすう い
上は、農業で暮らしをたてています。そのほとんどは、みかん作りをしています。そのほ
かには、ぎょぎよう しま こうじよう い ひと
かには、漁業をしたり、島にある工場へはたらきに行ったりする人もいます。

おおさきしもじま ふね むす まち
大崎下島と船で結ばれている町



みなと おおちようこう
〔港のようす (大長港)〕

しま はなし
島のおばあさんの話



ふだん暮らしにいるもの
は、しま みせ か
島のお店で買うんじゃけ
ど、むかし と かいぶね
昔は、「渡海船」とい
う船の運送屋さんにたのん
で買ってきてもらったんじゃ。今は、渡海
船じゃなくて、トラックで野菜や食料品・
にちよう ひん はいたつ
日用ざっか品などを配達してもらっとるん
よ。じぶん の かい い たす
よ。自分で、フェリーに乗って買いに行かなくてもいいからとても助かっとるんよ。



と かい ぶね
〔渡海船〕

はいたつ 配達をしているおじさんの話 はなし



台風の日でも、渡海船
で物を運んでいたけれど、船が古くなってね。
あぶないからやめようとおも
思ったけれど、島の人たち

に、「ぜひ続けてくれ。」と言われてね。
今では、愛媛県の今治市などで買ってきてトラックで運んでいるんだよ。



とかいぶね [渡海船にかわるトラック]

島の人々の生活は、いろいろな人の努力に支えられているんだね。
だけど、水や電気は、どうしているのかな？



やくば ひと はなし 役場の人の話



島の水は、昔はため池や井戸を使っていたんだよ。しかし、雨の少ない
時は、水不足でこまっていたんだ。それで、1974年(昭和49年)から、
まわりの島々といっしょに、広島市の太田川から海底パイプで水を送って
もらうようになって、心配はなくなったよ。電気は、竹原から大崎上島を
通って送られてきているんだよ。

1992年(平成4年)には、大崎下島の豊町と豊浜町がある豊島を結ぶ豊浜大橋が
完成し、人々の生活も大変便利になったんだよ。

1998年(平成10年)には、大崎下島と愛媛県の岡村島が橋で結ばれたんだよ。
そして、2008年(平成20年)には、長年の島に住む人たちの願いであった豊島大橋
(愛称「アビ大橋」)が完成して、4つの橋で呉市とつながったんだよ。そのおかげで、時
間を気にせずに、安心して島から出たり帰ったりできるようになったんだよ。



おかむらじま はし [岡村島への橋]



とよしまおほし あいしょう おおはし [豊島大橋 (愛称「アビ大橋」)]

自然・環境

産

業

歴史・伝統

先人

今・未来



これからの町づくりは、どのように進めていくのかな？



さんぎょうぶん か さい
〔産業文化祭のようす〕



ワイシーエヌ ゆたかまち
〔YCN (豊町ケーブルネットワーク)〕

やくば ひと はなし
役場の人の話



島のくらしも便利になってきたけれど、1955年(昭和30年)ごろには、9000人ほどいた人たちも、若い人たちが他の町ではたらくために島をはなれるようになり、今では2500人ほどにへったんだよ。そのうちの半数以上が、65才以上のお年よりなんだよ。

そこで、近ごろでは、島の若い人たちが中心になって、産業文化祭などを開いたり、マーマレードなど、みかんを使った特産品を作ったりして、町おこしをしているんだよ。町をよくするために、色々な使い方のできる公民館を作ったり、港を大きく作り直したり、農道を整えたりもしているんだよ。また、1989年(平成元年)から、YCN(豊町ケーブルネットワーク)というテレビ局を作り、島のくらしに大切な情報を全部の家にとどけているんだよ。

チャレンジコーナー



(1) 福山市の人口は約47万人ですが、中国地方で何番目の規模でしょうか。
〈第1回・3級〉

- ① 1番目 ② 2番目 ③ 3番目 ④ 4番目

(2) 福山市は、1916年（大正5年）7月1日の市制施行時の面積は、5.8km²でした。その後、1市10町20村と計10度の合併を行い市域を拡大してきましたが、現在の面積は次のどれでしょう。
〈第2回・3級〉

- ① 100.6km² ② 308.6km² ③ 518.1km² ④ 618.1km²

(3) JR山陽線は福山市を横断していますが、福山市内に設置されている駅の数はいくつでしょう。
〈第1回・3級〉

- ① 3駅 ② 4駅 ③ 5駅 ④ 6駅

(4) 標高約546mの山で、富士山に似ていることから「備後富士」の別名を持つ山は次のうちどれでしょう。
〈第3回・2級〉

- ① 蔵王山 ② 蛇円山 ③ 笠木山 ④ 馬乗山

(5) 毎年4月29日の「昭和の日」に山開きをする「山野峡 県立自然公園」は、春は新緑、夏はキャンプ、秋は紅葉が楽しめます。「山野峡 県立自然公園」の龍頭峡には、落差60mの龍頭の滝とその上流500mにもう一つ滝があります。では、その滝は次のうちどれでしょうか。
〈第5回・2級〉

- ① 三郎の滝 ② 藤尾の滝 ③ 猿鳴の滝 ④ 四段の滝



ふくやま みどりゆた しぜん
福山には、緑豊かな自然もいっぱい
あるんだよ。

解答は130p